

精神科神経科

初期臨床研修

1. 1～2年次ローテーションの研修目標

さまざまな病態や病期にある患者に触れる事を通じ、精神科疾患の診断と治療、患者への対応の基本を横断的に学ぶ。

研修医の主な業務内容には病棟診療と初診患者の病歴聴取および初診外来の陪席が挙げられる。また、指導医の下で時間外診療の補助を行うことで精神科疾患の時間外受診への対応を学ぶ。

また、当科では指導医よりの講義や外部より演者を招いての講義、海外の最新論文の抄読を活発に行っており、精神医学分野の入門的知識にはじまり最先端の知見にも触れる事が可能である。

ローテーション中の具体的な研修目標としては以下が挙げられる。

- ①統合失調症、気分障害、せん妄について基本的な診断概念と薬物療法を理解する。
- ②精神疾患の診察において、病歴および症状の聴取と記載が行える。
- ③精神医学的面接技法についての基本的事項を理解する。
- ④精神科で行われる薬物療法について、疾患ごとに概要を理解する。
- ⑤精神科で用いられる薬剤について、その副作用を理解する。
- ⑥脳波所見をもとにして基本的な診断と解釈を行うことができる。
- ⑦精神症状を伴う身体疾患の鑑別に必要な各種検査を理解する。
- ⑧任意入院、医療保護入院についてそれぞれの適応と必要性を理解し、その説明を患者及びその家族に説明することができる。
- ⑨隔離および身体拘束のリスクを理解する。
- ⑩救急受診を要する精神科患者について基本的な対応を理解する。

後期研修 (専門研修1年目の医員の研修目標)

専門研修1年目は基本的に京大病院精神科病棟で入院患者の担当医として診察や治療計画の組み立てを行う。また、他科病棟への往診も行うこととなる。

指導医の下で病棟業務の中心的な役割を担うため精神医学的面接や薬物療法についての技術の向上を見込める。

専門研修期間中には数名の患者の入院から退院までを一貫して観察する事ができ、精神科疾患を持つ患者の経過についての理解を深めることができる。

また、専門研修期間中に最低1回は学会発表を行うことが推奨されており、このことは臨床の中で生じた疑問をより一般的な視点から再検討するよい機会となる。

専門研修中の目標としては、先に示したローテーション中の目標に加え、以下が挙げられる。

- ①操作的診断についての基本的な知識をもち、その限界も含めて理解する。
- ②定型、非定型抗精神病薬について、剤形や投与方法の違いも含めたそれぞれの特徴と副作用を理解する。
- ③三環系、四環系、SSRI、SNRI等の抗うつ薬それぞれについて特徴と副作用を理解する。
- ④各種抗てんかん薬及び気分調整薬についてそれぞれの特徴と副作用、血中濃度モニタリング

の必要性を理解する。

⑤医療保護入院、措置入院および措置解除についてその適応と手続きを理解し、指定医に説明ができる。

⑥認知行動療法の適応と方法を理解し、治療計画を立てることができる。

⑦電気けいれん療法の適応と方法を理解し、治療計画を立てることができる。

⑧摂食障害の行動療法について適応と方法を理解し、治療計画を立てることができる。

⑨発達障害の診断の為の病歴聴取と心理検査を理解し、基本的な治療計画を立てることができる。

⑩他科入院患者に生じた精神症状を評価し、その治療と基本的な対応法について主治医に説明できる。

⑪各種神経画像検査および心理検査についての基本概念を理解しており、その所見に基づく診断が行える。

⑫精神科リハビリテーションの適応を理解し、スタッフと連携しながら治療計画を立てることができる。

⑬臨床の中で遭遇した症例について臨床研究という視点より捉えなおし、過去の文献と照らして考察を加え、報告することができる。